



川を調べよう!

21世紀は水の世紀とも言われ、川や水に対する関心はますます高まっています。滋賀県でも、多くの人たちが、川をきれいにする取り組みや、水に関する調査をしています。

県立図書館では、「水資料」収集の一環として、多種多様な川に関する資料を収集しています。今回は、その中から、川を調べるための基本的な資料を紹介します。

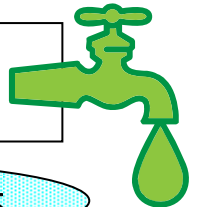
家の近くの川。水源はどこで、どこまで行くのだろう？
この川には、どんな歴史があるのかな？

『**河川・港湾調書**』滋賀県河港課 2007 SB-HA04-07
滋賀県内の河川の、名称・区間(上流端と下流端)・長さがひとめでわかる、川の名簿。滋賀県には一級河川が511本あり、うち119本が直接琵琶湖に注いでいます。県内の水力発電所・ダム・漁港の一覧も掲載しています。
『**近江の川**』東方出版 1993 S-5180-93
滋賀県内の主要30河川をとりあげ、各河川の歴史を詳しくしたものの。参考文献・年表もあり。
『**日本全河川ルート大辞典**』竹書房 1979 Y-4529-A
川の名前の由来や、その川にまつわる伝説を、都道府県別に解説。

川の名前をしらべる本

『**河川大事典**』日外アソシエーツ 1991 Y-5172-2
約26,000河川を50音順に収録。名称、流路、水系等を記載。
『**河川・湖沼名よみかた辞典**』新訂版 日外アソシエーツ 2004 Y-5172-2
日本の河川・湖沼名26,557のヨミを明示したもの。

「一級河川」「二級河川」ってなんですか？
法律で決まっていると聞いたのですが...



川の用語・川全般を調べる本

『**川の百科事典**』丸善 2009 Y-5170-7
総論編では21の川関係のキーワードを読み物風に解説。各論編は川関係の用語を大・中・小項目で50音順に解説。学術用語だけでなく、一般に関心が高い用語も多く収録しています。「一級河川」は、国土保全および国民経済上、特に重要な水系として、河川法にもとづく政令で指定された河川で、国が指定し管理する川。二級河川は、県が指定し管理する川であることがわかります。
『**川のなんでも小事典**』講談社 1998 Y-4529-1
川の自然・生活・技術に関する初心者向け入門書。川の地形・流れ・生態系・治水・利水の各章に参考文献があり、調査を深める手がかりになります。
『**NHK っぽん川紀行**』ポプラ社 2001 Y-5172-1~7
小学生の総合的な学習に役立つ川の調べ方ハンドブック。川の漁業 川と農業 川と交通 川の環境 川と遊ぶ 川とくらし 川を調べる の各巻。

河川法・河川行政がわかる本

『**河川六法**』大成出版社 2009 Y-5170-カ
河川法、砂防法、水防法等、河川に関係する法令200件、告示25件、例規173件、判例2件などを収録。
『**よくわかる河川法**』ぎょうせい 2007 Y-5170-カ
わかりやすく簡潔な、河川法の解説書。
『**改正河川法の解説とこれからの河川行政**』ぎょうせい 1997 Y-5170-ケ 1997年に大きく改正された河川法の、改正の背景と趣旨を解説したもの。
『**河川ハンドブック**』日本河川協会 2007 Y-5170-カ
河川関係の国の事業の概要、水害・水需給等の現況、全国の河川の概要等がコンパクトにまとめられたもの。
『**日本の水資源**』国土交通省土地・水資源局 YB-5170-2
国土交通省がわが国の水需給や水資源開発の現況、今後早急に対応すべき水資源にかかわる課題について総合的にとりまとめたもの。昭和58年から毎年公表。

川にまつわるクイズです。

滋賀県内を流れる川はすべて、最終的に琵琶湖または瀬田川に流れ込んでいる。 か×か？
(答えは裏面に)

最近、「ゲリラ豪雨」などの災害についてよく聞きます。
水害の実情や、水防対策はどうなっているのでしょうか？

水害の統計の本

『**水害統計**』平成18年版 国土交通省河川局 YB-5174-7
その年に発生した水害を、規模の大小を問わず調査したもの。都道府県・市区町村別、資産別、異常気象別、主要水系別、河川等種類別、水害原因別の被害の統計を掲載。経年変化の表もあり。昭和36年から刊行。
『**水害レポート**』2007日本河川協会 その年の水害の概要を写真を多用して簡潔にまとめた資料。

滋賀の水害の歴史

『**滋賀県災害誌**』[第1部]～第4部 滋賀県 1966～2000
滋賀県で古代から1998年までに発生した災害の記録。資料編に主要災害被害一覧あり。
『**治水の歴史をたずねて**』近畿地方建設局 5-5180-85
琵琶湖の洪水・治水・砂防等の歴史をガイドブック形式で紹介したもの。
『**琵琶湖治水沿革誌**』復刊 琵琶湖治水会 S-5180-1
大正14年・昭和31年刊行の第1編・第2編を合本して復刊したもの。琵琶湖治水の歴史を詳述した基本資料。

水防対策の本

『**滋賀県水防計画**』平成20年度 滋賀県 SB-HA04-08
資料編に河川・ダム・橋・道路等の重要水防箇所の一覧を掲載。県内の雨量・水位の観測所の一覧も。
県内の各市町村では、洪水ハザードマップも作成・公表しています。(詳しくは『ナマズの知恵袋』第18号をご覧ください)

川の防災データベース

国土交通省河川局 水文水質データベース
<http://www1.river.go.jp/>
国土交通省河川局が所管する観測所における観測データ。掲載対象データは、雨量、水位、流量、水質、底質、地下水位、地下水質、積雪深、ダム堰等の管理諸量、海象。水系などを指定しての検索、地図上の観測所からの検索が行えます。各種統計データ、川の防災情報、リアルタイム水位などもあります。(雨量・流量データの一部は、『雨量年表』『流量年表』として、年1回公刊されています。)

新聞などで、ダムの話題をよく見かけます。
ダムについて、基本的なことをもっと知りたいのですが...

治水とダムを考える

『**21世紀の河川思想**』天野礼子編 共同通信社 1997
Y-5170-A 長良川河口堰問題にかかわってきた編者をはじめ、11名の学者・ジャーナリストがこれからの河川思想を語っています。
『**生活環境主義でいこう!**』嘉田由紀子 岩波書店 2008
S-5100-08 滋賀県知事である著者の、「生活環境主義による治水」の由来が明快に語られた入門書。
『**湖水を拓く**』高崎哲郎 鹿島出版会 2006 Y-5177-7
ダム建設に生涯を捧げた人物の列伝を中心に、戦後日本ダム建設の理論と実践を描いたもの。資料として日本近現代ダム年表もあり。
『**にっぽんダム物語**』豊田高司 山海堂 2006 Y-5177-1
本当にダムは不必要なのか。ダムの役割と影響を検証し、今後のダムのあり方を提示しています。

ダムの現状を知る

『**ダム年鑑**』2008 日本ダム協会 2008 Y-5177-7
ダム建設事業の現況・計画について記載した年鑑。全国のダムが、目的別や水系別で一覧になっています。中止ダムの一覧や、全国のダム地図も掲載。
『**ダム**』萩原雅紀 メディアファクトリー 2007 Y-5177-11
ダムへの愛があふれる写真集。続編に『ダム2(ダムダム)』もあり。
『**川辺の民主主義**』ロッキング社 2008 Y-5177-11
日本全国の、ダム住民運動の現場の声を集めた図書。
『**ダムはムダ**』フレッド・ピアス 共同通信社 1995 Y-5172-7
世界各地で、ダムができて何が起こったかを描く問題提起の本。

ダムをつくる技術・ダムに頼らない技術

『**絵で見るダムのできるまで**』中村靖治著 山海堂 1988～1995 Y-5177-1～4
ダムの計画・調査から施工まで、土木技術者以外の方にもわかるように記述。
『**ダムのはなし**』竹林征三 技法堂出版 1996 Y-5177-7
ダムの語源・歴史からダム造りの技術までを解説。参考文献もあり。
『**技術にも自治がある**』大熊孝 農山漁村文化協会 2004
Y-5170-0 河川工学者である著者が、治水技術の伝統と近代に関する考察を通じて、自然・川・技術のあり方を問い直す図書。
『**ダム撤去**』岩波書店 2004 Y-5177-11
すでに500以上のダム撤去をしたアメリカの専門機関が、ダム撤去を考えるための様々な角度からの客観的な情報を提供した図書。

ダムを考えるホームページ

滋賀県HP「河川の治水に対する考え方」
<http://www.pref.shiga.jp/h/chisui/index.html>
国土交通省河川関係HP
<http://www.mlit.go.jp/river/>

1面のクイズの答え... x

滋賀県内にも、琵琶湖につながっていない川が4本あります。高島市の北川・寒風川・椋川は北川水系、旧伊吹町の藤古川は木曾川水系の一級河川です。それ以外の滋賀県内の一級河川507本は、淀川水系の一級河川(最終的に琵琶湖・淀川に注ぐ川)です。ちなみに、県内に二級河川は0本、準用河川は60本あります。(『河川・港湾調書』による。)

